

JICA ネパール国カトマンズリスクアセスメントプロジェクト研修プログラム一行が訪問され、防災・復興に関する講義・ディスカッションと仙台平野の巡検を行いました(2016/3/22)

テーマ：国際協力、防災・復興
場所：災害科学国際研究所、仙台平野

国際協力機構（JICA）は2015年3月からカトマンズリスクアセスメントプロジェクトを実施していたところ、同年4月25日にゴルカ地震が発生し、新たに復興計画策定のコンポーネントを組み込みました。その流れを受け3月22日（火）、ネパール国の都市開発省、内務省、連邦地方開発省などに所属する政府関係者12名が東北の視察のために仙台を訪問されました。それを機に災害科学国際研究所では、防災・復興に関する講義とディスカッションを行った他、仙台平野の巡検を行いました。

防災・復興に関する講義・ディスカッションのプログラムは、以下のとおりです。

- ① 『Welcoming address』 奥村誠 副所長・教授（人間・社会対応研究部門）
- ② 『Gorkha Earthquake and future perspectives』 Mr. Lok Bijaya Adhikari（ネパール国産業省鉱山・地質局、国家地震学センター長）
- ③ 『Introduction of IRIDeS survey result』 江川新一 教授（災害医学研究部門）
- ④ 『Earthquake risk assessment and its use in Miyagi Prefecture for risk reduction』 源栄正人 教授（災害リスク研究部門）
- ⑤ 『Land use control and emerging challenges after the GEJE and Tsunami』 井内加奈子 准教授（人間・社会対応研究部門）
- ⑥ 『Greetings from IRIDeS Director』 今村文彦 所長・教授（災害リスク研究部門）

午後の仙台平野巡検は、後藤和久 准教授（災害リスク研究部門）および井内加奈子准教授、マリ・エリザベス助教（人間・社会対応研究部門）が担当し、荒浜（貞山運河、防潮堤）、関上（日和山見学）、岩沼市民図書館（地質資料）の視察とそれぞれの説明を行い、活発な意見交換がなされました。



災害科学国際研究所棟前での記念撮影

井内加奈子（人間・社会対応研究部門）